

棚田に吹く風



5 2011
月号
Vol.76
隔月刊

3 フォトエッセイ
棚田のすがた

4 特集
棚田は守るべきなのか？

6 棚田・里山からのたより
棚田支援隊による荒廃地の再生と発生抑制活動
岡山県久米南町北庄

8 棚田の未来予想図
田んぼの生き物たち

9 棚田博士は今日も行く
奥伊勢・大洞山麓の棚田
三重県津市美杉町三多気

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき

15 Project Report



東日本大震災で思うこと

今回の大震災で被災した皆様方に、棚田ネットワークを代表して深甚なるお見舞いを申し上げます。

私は、東北地方を中心にして襲った大津波による被災地の映像を見て、

瓦礫の原と焼野原の違いはありますが、第二次大戦後の日本全土の風景を思い出しました。

佐賀県で終戦を迎えましたが、沖縄に次ぐ戦場と考えられていたためか、

九州は保養地の別府市をのぞき、市はもちろんのこと、町のレベルまで焼野原になったのです。

われわれ日本人は、その焼野原から勤勉に働き、

世界でも有数の経済大国といわれるまでに国を復活、発展させました。

また、外国人はこの国難に遭遇した日本人の冷静で沈着な行動に絶大な賞賛と敬意を払っています。

われわれは、震災と戦災の違いはありますが、

同じような災禍のなかからもう一度力を振り絞り、立ち上がる必要があります。

そのために、まず避難所で難儀をしている被災者に思いを馳せ、

震災復興に注いだ労力と英知を震災地に結集させ、支援の輪を広げなければなりません。

市民一人ひとりができる限りの力を尽くし、支援の輪に加わることを切望して止みません。

「蘇れ東北、頑張れ日本」



桜咲く棚田

カメラを積みこんだ車を走らせ、棚田撮影をつづけています。そんな自分が日本の面積や農地面積も知らないでと地図をひろげると、日本の面積は37.8万km²でした。ピンとこないので正方形にしてみると378,000km²÷615km×615kmです。ナールホド東京から青森陸奥湾あたりまでを一边とする正方形か、と幾分わかったような気がします。そのうちの7割が山林で平地が3割だといいます。

山村をたずねると耕作放棄地が目につきます。その面積は3,860km²（東京都面積の1.7倍）になるそうです。

稲作歴史千数百年、先祖の知恵と汗の結晶である棚田を消し去っていいのだろうか、子々孫々へ負の遺産を残しているのではないかと不安をおぼえつつ撮影しています。

写真は三重県津市の三多気の桜と棚田の姿です。心ゆさぶるスパライシ情景にめぐり会えました。

棚田のすがた

写真と文
永田 博義



Profile

永田 博義 ながた ひろよし

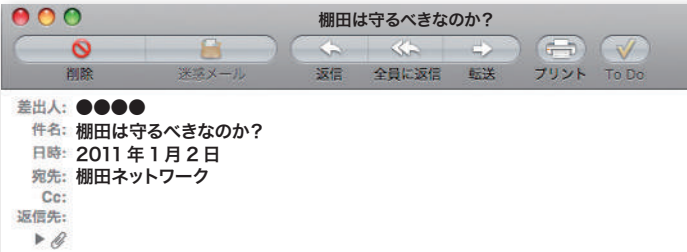


1938年、長崎県佐世保市生まれ。東京電機大学大学院修了。1956年、アルバイト先でDPEに興味を持つ。1976年、写真家・前田真三氏に邂逅し指導を受ける。1980年、東京都職員写真展特賞受賞。2003年、ポストカード「遺産 日本の棚田I・II」出版。2004年、写真雑誌「日本フォトコンテスト」において「遺産 日本の棚田」を1年間連載。現在、全国の棚田をはじめ農村風景を撮影している。千葉県在住。棚田学会会員。

- 個 展 2009年「日本の棚田」 富士フィルムフォトサロン東京、同・大阪
- 写真集 「本土寺の四季」(1984) 「偕楽園追迹」(1997)

今年初めに一通のメールが
棚田ネットワークに届き、
以下のようなやり取りがありました。

1月2日、K氏から棚田ネットワークに届いたメール



素朴な質問です。

「棚田」とは農業従事者による森林の破壊結果ではないのでしょうか？

なぜ棚田を残さないといけないのかわかりません。

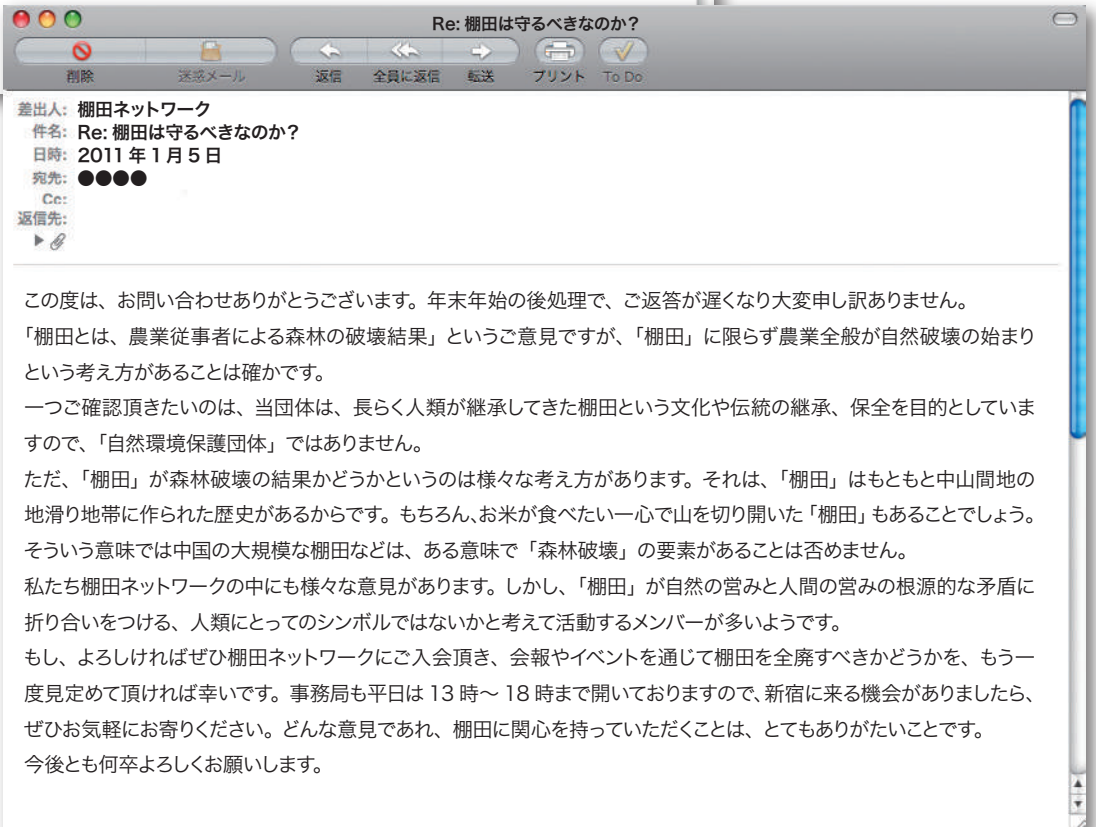
私の意見では、全ての棚田を廃棄し、

その地域の気候・風土にあった森林に戻すべきではないかと思います。

いかがでしょうか？

棚田は
守るべき
なのか
...？

棚田ネットワーク事務局の返信



この度は、お問い合わせありがとうございます。年末年始の後処理で、ご返答が遅くなり大変申し訳ありません。

「棚田とは、農業従事者による森林の破壊結果」というご意見ですが、「棚田」に限らず農業全般が自然破壊の始まりという考え方があることは確かです。

一つご確認頂きたいのは、当団体は、長らく人類が継承してきた棚田という文化や伝統の継承、保全を目的としていますので、「自然環境保護団体」ではありません。

ただ、「棚田」が森林破壊の結果かどうかというのは様々な考え方があります。それは、「棚田」はもともと中山間地の地滑り地帯に作られた歴史があるからです。もちろん、お米が食べたい一心で山を切り開いた「棚田」もあることでしょう。そういう意味では中国の大規模な棚田などは、ある意味で「森林破壊」の要素があることは否めません。

私たち棚田ネットワークの中にも様々な意見があります。しかし、「棚田」が自然の営みと人間の営みの根源的な矛盾に折り合いをつける、人類にとってのシンボルではないかと考えて活動するメンバーが多いようです。

もし、よろしければぜひ棚田ネットワークにご入会頂き、会報やイベントを通じて棚田を全廃すべきかどうかを、もう一度見定めて頂ければ幸いです。事務局も平日は13時～18時まで開いておりますので、新宿に来る機会がありましたら、ぜひお気軽にお寄りください。どんな意見であれ、棚田に関心を持っていただくことは、とてもありがたいことです。

今後とも何卒よろしくお願いします。

みなさんも改めて考えてみませんか！

返信メールは、もちろん棚田ネットワークの公式的見解というわけではなく、会員の中には様々な視点が存在します。また、棚田の存在が、一般層へ大きく広がり、社会的な注目度も増す中、「棚田」に対する意見や考え方も多様な広がりを見せています。そして、一般的には、「棚田」＝「自然」というイメージも強く、上記の投稿メールのような疑問にどう答えていくかも、私たちにあってこれから大切な仕事になってきます。

棚田ネットワークは、15年の活動で、棚田の素晴らしさ、棚田の必要性、棚田の意義などを社会に認知してもらうために活動してきました。棚田を守るのは当たり前だと思っている私たちにとっては、「なぜ棚田を残さないといけないのかわかりません」という質問は、あまりにも短絡的に聞こえてしまいます。しかし、それはもしかしら、棚田を守りたいという私たちの一方的な立場からの思い上がりかもしれないかもしれません。そこで、今回4月18日からスタートしている「丸の内さえずり館企画展示」のテーマを「棚田は守るべきなのか？」として、展示、ディスカッション、セミナーを通じて、この一通のメールに対して様々な意見を来場者にいただき、改めて棚田保全の意義を考える機会にしたいと思いました。

これって自然破壊？

平地のない雲南省では、山全体が棚田と化しています。壮大な風景と感じる人も一方で、これは自然破壊なのではないでしょうか。

(棚田ネット事務局員)



「守る」必要があるのでしょうか？

「棚田」はかつて人間が自然の草木を切り倒して作ったものですが、現在は米余りや過疎地の高齢化により不要になっています。人間が自然を破壊して作った不要な人工物をわざわざ金と労力を費やして「守る」必要があるのでしょうか。

(ある学者さんのコメント)

こんな意見もあります。

都会の人のエゴではと思っています

私は現状のままなら棚田を守り続けるのは反対です。作る立場の人を考えれば棚田は大変です。都会の人のエゴではと思っています。もし守るなら都会の人が中心になって守るべきです。

(会員・板橋区)

100年200年300年と耕作され続けなければ…

棚田問題は考えれば考えるほど難しく悲観的にもなります。それでも何とかせねばという強い思いはありますが、放棄田を再生することが最終目的ではなく、復田してもその田がこれから100年200年300年と耕作され続けなければ、それはマスターベーションに過ぎないと思っています。

(会員・柏崎市)

企画展示期間中、さえずり館にご意見ボード設置。ご意見ください！

※メールでもご意見おまちしております。
hiroba@tanada.or.jp

棚田ネットワーク 企画展示

棚田は守るべきなのか？ ～棚田を取り巻く『命』～

2011年4月18日(月)～5月30日(月)

会場：丸の内さえずり館 www.m-nature.info/

(JR・東京メトロ有楽町駅、東京メトロ 日比谷駅)

Open 月曜～金曜 11:00～19:00

東日本大震災の影響により、開催期間が変更になりました。

棚田・里山
からの
たより



棚田支援隊による荒廃地の再生と発生抑制活動

岡山県久米南町北庄



上：棚田の中心にある神之瀬池（かんのんぶちいけ）／下段左：北庄棚田の冬景色／下段中・地元の小学生の田植え体験／下段右・棚田支援隊の力で棚田の景観を守る

北庄中央棚田天然米生産組合が活動する北庄地域は、岡山県のほぼ中央に位置する久米南町の最北端にあり、標高300㍎から450㍎にわたり稲作を中心とした山間棚田地域です。水不足に悩まされながらも、江戸時代初期の耕地事業の一つ『是里池築堤』、大正末期から昭和初期に行われた『誕生寺耕地整理組合』による開田・溜池の増改築や、サイフォンの原理を利用した大がかりな農業用水等、先人達の偉業と宝に支えられてきました。

組合設立の経緯

平成6年、岡山県が推進する『棚田天然米生産地育成事業』と『棚田地域営農条件等整備事業』推進条件を満足する地域として、県下認定7町村7地区の一つになりました。北庄中央地区35戸の内、事業主旨に賛同いただいた25戸の農家が会員となって、有機減農薬米

（コシヒカリ）の栽培を通じ、棚田景観の保全と活性化推進を目的として組合が設立され、平成11年まで補助事業推進を中心に活動。そして平成12年以降は、過去6年間の活動組織と実績を基に、北庄地内の他の活動組織と協力し、地域活性化のリーダーとして独自の活動を続けています。

『日本の棚田百選』に認定

転作奨励が進み、特に中山間地域で耕作放棄地が増加傾向にあるなか、北庄地域では日本の原風景である棚田を、景観としてだけでなく生産の場として維持していることが評価されています。北庄3地区全体（北庄東・北庄中央・北庄西）は日本一広い面積（88㍎）を誇る棚田地域であり、平成11年に『日本の棚田百選』の認定を受ける事が出来ました。更に平成22年3月には、棚田の中心位置に築堤され山間棚田水源の一つとして現役の

棚田ファンクラブ設立

棚田百選認定と同時に、北庄棚田を訪れる棚田ファンが多くなりましたが、県南の方が多く、季節感にズレを生じる事が多くありました。そこで、来訪の目的に合わせた棚田情報を発信することにし、有料会員制の棚田ファンクラブを平成13年3月に設立しました。先ず棚田ファン（特に写真愛好家）との交流を深め、ジャストオンで来訪出来る事のメリットをPRしました。また、棚田での生産活動（外部から見れば棚田景観保存）が町外者に癒しを与える事が出来る景観であることの喜びが、地元住民のヤル気を奮起し、地域に活力が生まれました。そして、生産効率の悪い山間棚田でネガティブな気持ちで働くより、ポジティブな気持ちで働き、地域活性化のエネルギーとなるよう、『苦農』から『楽農』への組合理念が確立されました。

棚田支援隊設立

地域住民の高齢化と住民の事情により、棚田景観の一番すばらしい場所に耕作放棄地が発生しました。この耕作放棄地は、棚田ファンクラブの方々による口コミで期待して当地を訪れた棚田ファンの方に失望感を与え、地域に対してはクレームとして返って来ました。また地元住民にとっても、自分達が生まれ育ったふる里が荒廃地化してゆくのを目にするのは、非常に寂しいことであり、ふる里が消えてゆく危機感を抱く毎日でした。しかし、棚田ファンクラブ会員の一人から出た言葉が、棚田支援隊の設立に向け背中を大きく押すことになりました。それは、「以前の姿に近い写真が撮影出来るなら、棚田景観再生に汗する努力を惜しまない」との力強い言葉だったのです。早速、組合総会で組合員の賛同を得て、平成19年8月25日の猛暑の中、第1回支援隊活動として荒廃地の草刈りが実施されました。賛同者は県内外から約60名。今年で5年目を迎えます。復田には至つ

■ 北庄の棚田へのアクセス

【電車】JR津山線誕生寺駅下車、徒歩50分(約3キロ)

【自家用車】中国自動車道津山ICまたは院床ICから国道53号線を南下。約40分

■ お問い合わせ

【北庄中央棚田天然米生産組合】
岡山県久米郡久米南町北庄1867-3
Tel.0867-28-3584 (近日中に回線変更予定)
E-mail : a.nishikawa1@hi.enjoy.ne.jp

ていませんが、景観作物を中心とした都市との交流の場になるまでの再生状況となっています。

天コシクラブ設立

中山間地域が直面している問題は、地区住民の高齢化に伴う離農家急増による、更なる荒廃地の増加及び原野化です。当地では、この時期を少しでも遅らせる施策として、都市住民参加による安全で安心、そして美味しい米造り組織として『天コシクラブ』を平成21年に発足させ、約10軒の会員による活動を開始しています。この試みの定着が、会員にとっては自分

と新たな交流の創出となり、新たな荒廃地発生の抑制活動としての効果が期待できます。

棚田支援隊の輪拡大

今年は、新たに1団体より『棚田守り隊』を発足させ、棚田保全に少しでも協力出来ればとの申し出があり、棚田保全・存続に向けての輪の拡がりを実感しています。現状に満足することなく、更なる定着と拡大によって、都市及び大型消費市場から距離的にも不利な立地条件の山間棚田の生き残り策となるよう、組合員一同一致団結し頑張ります。

北庄中央棚田天然米生産組合
組合長 西河明夫





第1話 棚田ニュータウン

イラスト：横山功



20XX年・・・
電力供給において脱原発の方針を示した日本は、市区町村単位での太陽光、風力、水力、地熱発電によるエネルギー自給自足計画を打ち出す。
そんな見直されゆくライフスタイルから食料自給ブームへと発展、住環境と飯米確保の可能性として棚田が見直されることとなる。
高齢化、空洞化が問題視されていた各都市のニュータウンは「棚田ニュータウン」となって若者が集まり、新たな田園都市構想として蘇るのであった！

みなさんの楽しい

アイデアを募集しています！！

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号「棚田に吹く風 未来予想図」宛
メールでも受付けています ⇨ hiroba@tanada.or.jp

田んぼの 生き物たち

第25回 スギナ(つくし)



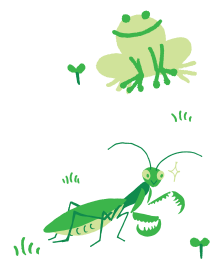
出会えると、思わず顔がほころびる「つくし」。シダ植物の仲間、トクサ科というグループに含まれます。漢字で書くと「土筆」、形が筆に似ていることが由来とされています。正式な名前はスギナ。土筆はスギナの胞子茎という部分で、言わばスギナの花と枝に当たります。

私は、毎年この時期しか味わえない土筆料理を楽しみにしています。卵のように、かき揚げに、きり

さらに、そのレパートリーは思いのほか広く、春の食卓の一品になります。

きっと何か健康にも良いのでは、と調べてみたら驚きました。「国立健康・栄養研究所」のホームページでは、土筆の部分を含むスギナには、健康に有効性のある科学的裏付けが殆どなく、むしろ長期間に渡って食べると安全性に問題があると紹介されていました。短い期間でしたら、他のワラビやゼンマイと同様、適切な処理をして頂くのは問題ないようです。長期間に渡って大量に摂取し続けるのは避けましょう。

(自然観察指導員 桐原真希)



棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

奥伊勢・大洞山麓の棚田

三重県津市美杉町三多気



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)
早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会
長。全国棚田(千枚田)連絡協議会理
事、棚田サミット開催地選定委員会委員
長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大
学教育学部地歴科卒。2004年まで早
稲田大学教育学部教授。著書に『日本
の棚田—保全への取り組み』『百選の棚
田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

のことばを思い出し、徳島県庁に
転勤になっている日置さんに電話
をすると、「父が案内するのは是非
棚田を見て下さい」と招待された。

ヤマザクラの並木と 大洞山の出迎え

2010年2月上旬、のぞみ1号
で東京を発ち、名古屋で南紀1号
に乗り換え松阪で下車。連絡して
いる名松線の伊勢奥津行きの列車
を探しても見当たらないので、駅
員に尋ねると途中の山城までしか
行かないとのこと。2009年10
月の台風で被害を受け、山城へ伊
勢奥津間は代行バスの運行となっ
ているが、この列車は接続してい
ないという。時刻表に掲載されて
いる列車が途中の山城で勝手に打
ち切られているという事態に唖然
とした。「消えた列車」といわざる

をえない。JR東海は復旧に手をつ
けていないので、このまま廃線
にしてしまうつもりようだ。こ
うして過疎地域は一段と疲弊して
いくのである。

松阪を出た列車はしばらく風車
が林立する布引山地へ向かって伊
勢平野を走る。井関を過ぎ短いト
ンネルを抜けると、幅広い雲出川
の谷底平野に入って行く。その谷
幅がしだいに狭くなり家城に着く。
接続の代行バスはおよそ2時間待
たねばならないので日置さんの父・
愛和さんに電話をして迎えにきて
もらった。(注)

三多気の集落は、標高400㍍



津市は、県の中央部を占める県
庁所在地。2006年1月に周辺
の9市町村を合併し、伊勢湾岸か
ら奈良県境までが領域となった。
美杉町は市の西端に位置する旧美
杉村のこと。布引山地に西を限ら
れ、雲出川が貫流する山里で、そ
の名が示すように床柱の産地とし
て知られている。三多気は、布引
山地南端の独立峰大洞山の南麓に
あり、集落の西を走る細い道が奈
良県との県境になっている。中央
の長さ1㍍に及ぶ真福院の参道は
樹齢300年のヤマザクラの並
木。桜の名所としての名が高い集
落である。

美杉町を訪ねるきっかけになっ
たのは、2004年7月、農水省
農村振興局の新しい課長補佐・日
置秀彦さんを紹介された時、「私の
実家は三重県の山奥、まわりには
棚田しかなかった」との一言。こ

500[㍎]の大洞山南麓の斜面に立地している。標高350[㍎]にある杉平のバス停から集落に上る道はサクラ並木の参道。両側に家屋が点在、正面に鎮座する形のよい三角形の大洞山が迎えてくれる。ヤマザクラが咲く季節、花に埋もれた集落の華やいだ姿を一度見たくなるような風景である。日置さんの家は集落の最高所。家の前まで道は行き止まりになり、庭から三多気の集落が俯瞰できる。

集落にある3地区の棚田

棚田は、集落のなかの桜地区、集落の東1[㍎]ほどにある榎切・池田地区、集落西の奈良県に属する西谷・松ヶ谷地区の3か所に分かれてみられる。桜地区は、点在する家屋の間を埋めるようにして2[㍎]3[㍎]の広さの棚田が20数枚散らばっている。2[㍎]前後の高さがある石積みは胎^{はら}みもなくしっかりと美しい。しかし、高齢化と水不足のため耕作されているのは数枚のみ、日置さんの棚田2枚も放棄されている。それでも参道沿いの数枚の棚田はサクラの季節、写真家のために水が張られているそだ。



榎切・池田地区は、大洞山麓の幅30[㍎]100[㍎]、長さ600[㍎]の谷間に傾斜8分の1、面積4・5畝の棚田が拓かれている。枚数は50枚弱、1枚の大きさは1[㍎]2[㍎]から10[㍎]をこえるものまで大小さまざま。上・中・下段の3つの部分にわけることができ、上段部分は未整備の巨岩を抱いた石積みの棚田である。石積みの高さは2[㍎]前後のものが多く、最上段の石積みは4[㍎]をこえる高さがある。日置さんの棚田はこの部分にあり、1枚が13[㍎]、他の4枚は4[㍎]5[㍎]の広さ。形は等高線を描いている。すでに、キリハギとよばれるクワで行う畦切りの作業がすみ、上手の石積み土を寄せ漏水を防ぐため



1：高さ2[㍎]前後の石積みの棚田／2：耕作の準備が進む／3：日置愛和さんは兼業農家。自分の水田40[㍎]と他家から引き受けた10[㍎]を耕作している。

のウラツケも終えていた。石積み土を寄せる作業は見たことがなく、用水不足はかなり深刻なようだ。棚田の端には数棟の野小屋がたっている。集落からここまで歩くと40分はかかり、車が通る道がなかった時代、作業小屋が必要だったのだろう。目を上げると大洞山が遠慮がちに頭をのぞかせていた。中段の部分は、整備されておらず、形も大きさも上段の棚田とかわらないが、水不足で放棄されている田が多い。このため、上段部分の棚田は団地面積1[㍎]以上の要件を満たすことができず、これまでも中山間地域等直接支払の助成金を貰ってなかったという。しかし、2010年に始まる制度では要件

が緩和されるので、息子に手伝ってもらい貰えるようにするんだと意気込んでおられた。下段部分は、10年前に整備されて、石積みから土坡の棚田にかわり、1枚が10[㍎]以上の広さ。形状は長方形に近く、直線状の土坡は2段になり、高さが3[㍎]はある。この部分は直接支払制度の対象になっているそだ。西谷・松ヶ谷地区は奈良県によって整備が行われた整然とした棚田である。傾斜9分の1、面積4[㍎]13枚、1枚の広さが4[㍎]5[㍎]、法面は直線状の土坡、その高さは1[㍎]5[㍎]ほどで、最上段に設けられている溜池によって灌漑されている。属地的には奈良県であっても、耕作者は三多気の人、したがって属

人的には三重県の土地ということになる。

三多気はかつて60戸をこえる集落であったが、現在は戸数50戸。ほとんどが20〜30[㍓]の水田しか所有しない農家であるため、山林や日雇い仕事、名張や津・松阪の企業で働く兼業農家である。過疎・高齢化は深刻で、かつて60名もいた小・中学生が、今年1名の中学生が卒業すると皆無になるという。婦人の独居老人世帯が多く、水田を耕作している農家は18戸にすぎないというありさま。

棚田で米を作る意味

ここで、日置さんと棚田で米を作る意味を考えてみた。まず、50[㍓]の米づくりの収支を計算してみると、売上は38俵の収穫、1俵1・3万円で農協に出荷したとして49・4万円。これに対し、自家労働力の労賃を除いた生産費は苗代7万円、除草・防除剤3万円、無人ヘリコプターを飛ばしての共同防除費1万円、収穫委託料10万円、地代1万円、耐用年数10年としてトラクターの減価償却費9万円、合計31万円で手元に残るのは18・4万円。これ

は大学卒の初任給（月給）にも劣る金額である。したがって、日置さんにはお米でお金を稼いでいるという意識はほとんどない。それでは「何故米をつくるのか」と日置さんに聞くと、「家に田圃があれば米をつくるのは当たり前、計算や理屈があるわけではない。他にやることもなく、身体が動くかぎり無駄にはできないのでつくり続けるのだ」という。横から奥さんが「健康のためにもいいしね」と口を添える。このような考え方が識者により「先祖が残した田畑を

守るため」という言葉に置き換えられるのだろう。

戴いたお昼は大変なご馳走。魚類以外はすべて自分の家でつくったもの。なかでも、塩・糠・トウガラシ・酢・昆布で味をつけた日野菜の漬物は逸品。これだけで何杯もご飯を食べることができそうだ。奥さんの精一杯のおもてなし、すべてに箸をつけることができず申し訳なく思った。

日置さん夫婦をみると、土地にしっかりと根を下ろし、もの静かで淡々とした振る舞い。声高

になにかを主張するでもなく、我慢することもない。万事目立たず、毎日田畑へかけ黙々と耕し日々を送っている。このような人たちが日本の原風景をつくり、守り育ててきたのである。

***注** 公共の交通機関のみで訪ねるとすると、終点の伊勢奥津駅から国道368号を走る三重交通の名張行きバスに乗り、杉平で下車、真福院へ向かう参道を上ると三多気に到着する。バスは朝・昼・夕の3便。（2010年2月時点）



日置愛和さん(71)と奥さんの治代さん(65)。魚以外はすべて自家製の料理でもてなしてくれた。



三多気の棚田へのアクセス



【公共交通】近鉄大阪線名張駅よりバスで約60分

【自家用車】伊勢自動車道久居ICより国道165号・県道15号・国道368号経由約60分。

会員の声

北アルプス・白馬三山を望む、 9年前に消滅した棚田が もうすぐ復活します!

長野県大町市 大門 正明

長野県大町市美麻の北端にある大おじの山小屋に初めて行ったのは2000年6月。幹線道路から悪路を車で30分上った北アルプスの景色抜群の静寂郷がすっかり気に入って毎月通って2年ほどたった雪解け直後のこと、夏は草ぼうぼうになる荒地に降りてみると粘土質の土に水路の跡、どうもここは田んぼだったらしいと気づき、改めて見回すと棚田の跡だらけなのでした。このときはまだ沿道に1箇所だけやってる棚田もあったのですがそこも2002年に断念されて沿道から棚田は全滅。以後、田んぼ作業などほとんど知らないまま、北アルプスを望む棚田の風景を復元できないものかという思いに取り付かれました。

2003年に棚田ネットの棚田協力隊を知って加わり、新潟・松之山の農業体験民宿「里美」と新田に7年通って、米作り名人・田中富士雄氏はじめ里美一家に農作業を教わり、田んぼも筋蒔きから脱穀まで体験することができました。そして去年、美麻北部で最後の棚田を作っていた方に教わりながらその棚田を復元できることになり、自分の活動をリストラして会社も新田も山もやめて美麻の棚田の復元に専念することにしました。去年4月、密生して高さ4メートルにもなっている猫柳の木を引き抜き始めて、棚田ネットの秋元さんや吉田さんの協力もあって7月末には畑にすることがで



き、今年はいよいよ水を入れて、北アルプスを望む棚田を復元します。元の地元住人も期待大で、田んぼのそばの古民家を整備して住めるようにして下さり、これで、せわしない東京生活から、囲炉裏の古民家に棲んで白馬三山を望む棚田を復元する優雅な生活に一変したのでした。

目的の棚田跡が平らになった去年7月頃、近くの藪も昔は田んぼだったという話を聞き、草を刈てみると畦もない広い平地が出てきました。こも11月から復田開始し、冬越して3月に再開。しかしこの1枚の復田を1年見送れば3週間あくので、一旦は断念して大震災救援物資配送のボランティアをすべく宮城へ。が、1日でダウン。続々と集結しつつある若者達に任せるべきだと思い知らされて敗退し、自分は被災者に何ができるのか探しながら棚田復元を続けることに。写真が50年ぶりに復活させるこの棚田で、右上のひな壇も上まで続く棚田や畑の跡です。一人では手が回らないので仲間を探しています。近くに古民家もあります。興味ある方は、HPを覗いて連絡ください。

■ HP「泥兎」 <http://doroyuki.info/>

会員のひろば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!「ご要望、感想やご質問でもOK!」(会員の声800字まで、会員レポート400字まで、写真も添えて)〒160-0023 東京都新宿区西新宿七-18-16 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp



会員さんの Best Shot!

会員のみなさんの ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇒ hiroba@tanada.or.jp



じよんのび：田植え
千葉県浦安市 秋元 勝治
(新潟県柏崎市高柳の棚田)

棚田散歩

愛媛県内子町 泉谷棚田



てっぺんの棚田

案の定、道に迷ってしまった。目標は「御祓小学校」、漢字が読めずカーナビ設定なしの運転。小さな集落で旦那さんに聞きましました。「泉谷の棚田に行きたいのですが?」「へへ埼玉から? 山のとっぺんにある見事な棚田だ。案内するから私の車について来な。走ること1・5 km、車を止め、「ここからは案内板を頼りに行きなさい」。感謝。途中2車線の所もあるがバイクとすれ違うのも難儀なダラリ権現経由の道を4歳ほど登った頂上近くに「泉谷棚田入口」の看板があった。ここからは極端に狭い下り坂。対向車が来ないことを祈りつつ50ほど下ると突然視界が開け、眼下に鋭いV字形の谷。その両壁に棚田がへばり付いている。90枚の石積みみの棚田が織り成す光景は芸術品で水車小屋からの眺望はすばらしい。運良く稲刈りの真っ最中で山々にコンバインの音が響き渡っていた。内子町役場の標高は45m、棚田上段が510mだからまさに「てっぺんの棚田」。5軒の農家を中心とした保存会が守り続けていますが未来に残したい棚田の一つです。

(埼玉県所沢市 上久保郁夫)



編集部イチオシ! BOOK & Movie



静岡の棚田研究〜その恵みと営み



編纂:
静岡県農林技術研究所
¥1,260
静岡新聞社
2009年6月
Amazon.co.jp にて購入
できます。

静岡県には、実はたくさんさんの棚田があり、多くの研究者が棚田(水田・休耕田)の「多面的機能」について科学的な解析に取り組んでいる。本書はその研究成果をまとめたもの。「棚田研究」と聞くと少し固いイメージを抱いてしまうが、個性溢れる研究者や棚田の保全活動に関わる人たちが、「生きもの」「水」「風景」「文化」「棚田の未来」など様々な切り口で、その思いや魅力を語っている。静岡県の人々の「棚田」に対する「熱意」とやる気が詰まった本。

ミツバチの羽音と地球の回転



2010年/日本
135分
監督・録音・演出
制作・配給:
グループ現代

■公開中 ~ 4月26日(火) / オーディトリウム渋谷(ユーロスペース2F) 自主上映も全国で開催されています。詳しくはオフィシャルサイトにてご確認ください。
<http://888earth.net/>

山口県上関町に新たな原発の建設計画が持ち上がった28年。瀬戸内海で漁業を営む祝島の人たちは一貫してこの計画に反対してきたが、反対派を取り巻く状況は厳しい。一方スウェーデンでは、「脱原発」を国民投票で決め、電力を自由化し、大規模な発電所に頼らない持続可能な社会をつくる取り組みがすでに始まっている。今、私たちはどのようなエネルギーを選択するのか? 2つの国の人々の姿を通して、エネルギーの現在と未来を問う。



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

保全団体の聞き取り調査一段落

報告 上久保郁夫

調査プロジェクトチームでは2008年から3年計画で全国の主要な棚田保全団体を訪問してきました。これは棚田地域の現状や保存会の取り組み、悩みなどについて聞き取り調査することが目的です。地方在住の会員さん達にも参加して頂き、予定された30地域についての調査が一段落しました。この貴重なデータを「調査報告集」にまとめ棚田関係者に広く活用していただこうと印刷製本の準備を進めているところです。ご協力いただきました各地の保存会の皆様および協働パートナーの三井物産環境基金にお礼申し上げます。



情報紙『まもりびと』

報告 高野光世

棚田ネットワークでは、会報誌『棚田に吹く風』のほかにもう一つ、『棚田のまもりびと』という情報紙(A4版6ページ・季刊)を2009年夏から発行しています。「棚田を守る人々をつなぐ」ことを目指し、実際に保全に携わっている地域の方たちを中心にお送りしてきました。保存会キーパーソンのインタビューや、若手や地域の女性を紹介する記事など、“ひと”に焦点を当てた構成で、一般の棚田ファンを意識した会報誌とはひと味違っています。編集はまだ手探りの部分もありますが、さらに改良し、役立つ情報紙にしていきたいと思ひます。



スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人

事務局HP担当
kuwakuwa

まずは、東日本大震災で被災された方にお見舞いを申し上げます。また、今もなお避難されている方が一刻も早く日常生活に戻れるよう心よりお祈りいたします。

さて私は、地震当日は事務局で、局長とゆきと仕事をしていました。棚の書類や置物などが落下し、マンシンの壁にひびが入るなどありましたが、幸いなことに3人ともケガもなく、局長とゆきは帰宅もできました。私は、午前5時まで事務局に滞在し、翌朝の早朝帰宅となりました。

事務所はテレビもなく、電話も通じない状態でしたが、インターネットで逐一情報が入り、ustreamなどの動画配信サービスで生のニュースも閲覧できました。Twitterやmixiで友人の動向を知り、自分の安否を配信しながら、家族ともメールで連絡が取れました。

まさにインターネット模様です。しかも、インターネットが通じるので、日頃溜まっていたホームページの作業ができる……。結局、事務所が寒くて眠れないのもあったのですが、kamryからの差し入れのカップラーメンをすすりながら、朝の5時までみっちり仕事をしました。(kamryありがとう！)

こんな状況でも仕事が出来てしまうことが良いことか悪いことかわかりませんが、今回の事態で、インターネットの社会的存在感がまた増したようにも思えます。そんなこんなで、今回から始まるこの「スタッフのつぶやき(輪番制)」でも、棚田ネットワークのインターネット部門全般を担当している私からは、小さなNPOのインターネット活用術やこぼれ話を中心につぶやいてみたいと思います！ どうぞよろしくお願いします。



栃木県茂木町

茂木プロジェクト

岩ノ作棚田での活動



岩ノ作棚田 春

今、岩ノ作棚田は緑満ちる季節を迎えている。ここで田んぼの生きもの調査を始めたのは、2005年4月のことだったので、このプロジェクトも7年目に入ったことになる。この間、トンボ類、魚類、貝類、水生昆虫類、両生類など、多くの生きものたちとの出会いがあった。四季折々、夥しい種類の野の花たちも私たちを迎えてくれた。これらの中にはホトケドジョウをはじめ、絶滅が危惧される動植物もいくつか含まれる。2009年からは、体験米作りも始めた。これにより、地元・小深集落の方々と交流も一段と深めることができた。

3・11の東日本大震災による未曾有の大災害は、福島原発からの放射能漏れも、農業へ甚大な影響をもたらしている。土壌汚染にさらされる地元はもとより、周辺地域での風評被害も大きく、安全確認された農作物も、消費者に受け入れられないという状況が続く。農家の心情を思うと心が痛む。大震災直後、都会のスーパーから最初に姿を消したのは、米と水であったと報道された。これを見て、米と水が豊かなのは中山間棚田地域であることを改めて認識した。栃木県は福島県に隣接する。言うなれば、風評被害の防波堤的位置にある。それ故に、今年の岩ノ作棚田での体験米作り（田植え：5月14日）は、格別の意味を持つものと思う。「がんばろう！日本」、「みんなで守ろう！棚田」を合言葉に今年の活動を進めたい。（安井 一臣）

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

「第4回かえるの卵を探そう！」開催



かえるの卵を探そう

3月20日（日）に棚田ビオトーププロジェクト岐阜恵那「第4回かえるの卵を探そう！」を開催しました。早春に卵を産むヤマアカガエルの卵塊を棚田ビオトープはもとより、坂折棚田全体で探す企画です。東日本大地震の影響でキャンセルもあり参加者は5名。今年は寒かったためか、ヤマアカガエルの卵塊は棚田ビオトープがなし、坂折棚田全体が1個見つかったという寂しい結果。昨年（20～21日実施）、棚田ビオトープが11個、坂折棚田全体が137個（15ヶ所）見つかったのと比較するとその少なさが分かります。ヤマアカガエルは「暖かい雨が降った次の日に卵を産む」といわれているので、それがまだなのでしょう。ちなみに4月4日に追調査をした結果、坂折棚田全体で新たに2個（1ヶ所）見つかりました。

今年度も棚田ビオトープで田植え、ホタル観賞、稲刈り、かえるの卵を探そう！を企画しております。ぜひ、ご参加ください。

（相田 明）

Topics 石部棚田へ行こうよ！プロジェクト準備中

昨年、棚田ネットワークの情報発信サポートチームがホームページ制作に協力したのをきっかけに、静岡県松崎町の石部棚田では、今年から棚田ネットワークのプロジェクト化を模索しています。

石部棚田のオーナー制度は今年で11年目を迎え、100組を超えるオーナーが集まります。しかし、それを支える保存会のメンバーが平均年齢70歳を超えていて、いつ継続不可能になってもおかしくない状況になっています。私たちが直接的な支援をどれほどできるか未知数ですが、まずは石部棚田の魅力や現状を多くの人に伝えるためのツアー企画や情報発信のサポートなどから取り組みたいと思っています。

写真は今年3月24日に行われた「ホタルのミニビオトープと森の遊び場づくり」（静岡県主催）です。放流したホタルのさなぎが順調に育てば、5月下旬～6月上旬には、石部棚田を乱舞するホタルの幻想的な光を見ることができるとも思われます。

（高桑 智雄）





私たちは、「結の精神」を見直し、自然と調和した街づくりに取り組んでいます。子孫が美しい地球で豊かに暮らすために。

NPO法人 環境資源開発研究所 新潟支部
 担当：樋口 芳暁 TEL. 0257-41-2839 E-mail: y.higuchi@tanada-project.com

Check! これまでの活動紹介はコチラ!! <http://tanada-project.seesaa.net/>

棚田の応援団

わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報誌「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員

維持会員 1口1万円(1口以上)
 一般会員 3,000円
 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員

1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

編集部から

3月11日。この日は日本人にとって忘れられない日付けになりました。この文章を書いているのは4月初旬ですが、震災と津波の被害は未だ全容が見えず、原発のコントロールも難航しています。多くの人が、自分に何ができるか自問自答しています。例えば風評被害に荷担しないこと。過度に自粛しないこと。現在市場に出回っているものは安全で、東北の多くの観光地は営業しています。だから「福島産を買おう!東北を救おう!」。そして、長く続く復興の道のりを一緒に歩いて行きたいと思っています。震災の影響で予定が変更になり、イベント準備と会報編集と総会準備が全部重なってしまいましたが、どうか乗り切れそうです。

ホームページのぞき見!

棚田ネットワークHPIは、主要検索サイトの「棚田」で、ほぼトップにランクする優良サイトです!内容も盛りだくさん、今年はウェブ独自企画も計画!乞うご期待。



棚田に吹く風

2011年5月号 Vol.76

発行



NPO法人
棚田ネットワーク

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号

Tel / Fax 03-5386-4001

e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp

www.tanada.or.jp